



1998 - 3 発行

社団法人 千葉市老人クラブ連合会 (043) 224-2050

総務庁長官から記念の楯

どこの町でも村でも、年を追うごとに高齢者の層は大きくなっている。高齢社会の現実がそこにあるのだ。成長より成熟を目指す熟年者が、自分たちの町を住みよい町に、美しい町に、いきいきとした町にしたい——そうした願望が見事な花を咲かせた。千葉市老連北地区連合会に所属する長沼原台千寿会クラブである。

総務庁は昨年10月、小里貞利長官名をもつて《長寿社会における社会参加活動の模範である》として、社会参加賞の記念の楯を贈り特別表彰した。なお稲毛区老連研修会のテーマ「老人クラブと地域とのかかわりあい」でこの活動が発表され、大きな感銘を与えた。実践活動のレポートは同クラブ小柴会長の寄稿である。



活動のきっかけはその年の7月の役員会で会員の深山さんから、食用油の廃油を利用して石けんをつくり利用しているが、効果は良いと提案があつた。

廃油で石けんづくり

平成5年4月1日、千寿会は会員50名（現在92名）が、長生きをしてよかったと実感できる豊かで活力のある地域を作ろうと設立した。以下実践活動の概要をレポートする。

たことに始まる。

創立の目的である地域の環境改善、汚水処理設備の老朽防止や水質浄化ができ、資源の再利用という目標が明らかになったので早速活動を開始した。まず、石鹸製造チームを結成し、製造工程や管理等のデータを収集すると共に現地を見学するなどをしたが、その間試行錯誤のくり返しであった。

試作品はその年も終わりに近い12月5日に出来た。製品の利用価値を試していたため自治会全戸に配った。石けんの種類をふやそう——こうした思いから洗濯機専用の粉石けんを目標に、平成7年12月7日千葉市リサイクルセンターに関係者5名が研修入所し粉石けん製造技術の指導をうけ、同所で試作品を完成させた。再び自治会全戸に配ると共に使用効果をアンケートで求めたところ、市販品以上だと好評を得た。

(注)このような製品の転換は機器設備等の確保に困難があるため、従来の固形方式をつづけることになった。

この活動が地域の住民の長期に亘る協力と理解によって一応の成果を挙げることができたが、会報やアンケートなどによる効果も大きな力であった。更につけ加えるならば、会員の長期に

高齢者の社会参加活動の範

得た知識と技術が好結果をもたらせたものであり、相互の信頼感によるものであった。



地域とのつながり

奉仕活動や世代間の交流 長沼原台には第一、第二の公園があり、住宅地のイベントや子供達の遊び場になっているが、ゴミナシと名づけて、創設以来毎日清掃活動をつづけている。

また子供達とのふれあいも活発である。会員の一部が農家から借りた畑で半年間子供達と芋づくりをしたが、収穫時には芋掘りと焼芋会を第一公園で行い秋の一日を楽しむなど世代の交流を盛んにしている。

健康をまもり健康をつくる活動

長沼原台園地内の保健指導経験者（健康をまもる会）と共催で年4回を目標に、千葉医師会の研修科目を選び、医師による講習会、保健婦、看護婦等による健康管理に関する講習会を開き、予防

管理の充実を図っている。また急激にすすむ老人世帯を豊かにするため、老人センター等の見学やボランティア活動をしている。

バス停附近の美化活動 第一公園京成バス停留所は、近くにある身体障害者センターの利用者の利用頻度が多いため、心のやすらぎを多少なりとも図ろうと美化運動に努めている。

概要を述べましたが、これからも全会員が力を出しあって「この団地に住んだ住民が豊かに生活できる桃源郷にする」ために頑張っていきます。

長沼原台千寿会クラブ殿

あなた方は、主体的に社会とかかわりを持ち積極的な社会参加活動を通じて生き生きと充実した生活を送られています。これは長寿社会における高齢者の社会参加活動の模範であります。

平成九年十月十六日

国務大臣 小 里 貞 利
総務庁長官



はじめに、わが国は戦争によって大きな痛手を受けたにもかかわらず、技術のめざましい開発を繰り返しながら、今や世界のトップレベルに立つ経済大国へと発展した。こうした状況のなかから「物質

活成する尚齒時代

明日の夢を宙に

市老連会長 新生 清 蔵

知識・技術を生かしたボランティア活動、健康づくりやスポーツ活動、趣味活動や学習活動、グループによる生産活動など高齢者にも多様な生き方がみられるようになった。今後は行動型、活動型の高齢者がますます増えるであろうし、老人クラブも自立し健康で生きがいのある高齢期を送ろうとする高齢者の意識の変化と実態を想定し、クラブ活動のあり方を検討する必要があるであろう。

る。笑顔のあるコミュニケーションづくりとしては、又工夫し地域性を大切にした企画を区老連に置いて行く事も、これからの社会参加のプランに生かしては如何でしょうか。

21世紀の本格的な高齢社会の到来、行政は高齢者の生きがいと健康づくりを優先し、高齢者のもつ活力を十分に発揮させる条件整備を積極的にすすめ、保健・医療・福祉を一本化し「保健福祉局」を置き、高齢者の健康増進に努めている。老人クラブ

も地域の特性を活かし、社会参加の指導に取り組み楽しさある事業へ変えたいと望みたい。市老連も区政へ協力する方向で区老連運営を会員皆様が把握して戴

つぎに展望ある夢を申し上げ、21世紀の市老連の姿を映してみよう。

楽しみづくりある工夫をみつけよう

老人クラブの地域性の集りを生かし、会員が大集合し、屋外ステージを囲み緑一色の草原の絨毯、すみきった宙のカーテンに覆われ、広場いっぱい群がり、流れるメロディーに乗り、歌に踊りに高らかな元気な交流に時を忘れる。このような楽しみある場面を思い

きご理解を得て、より一層の楽しみある老人クラブを考えたい。終りに会員皆様より戴く数多い声を大切に受けとめ満足戴けるような答を出したいと努めています。併せて時代と共に歩む組織づくりの改革に会員の皆様にお手伝い戴くようよろしく御願います。

浮べる。そこに人間性の暖さが泉とな

市老連便りが新しいスタイルで第八号として発刊するに際し展望を申し上げ失礼します。

平成10年度事業計画

会員の皆様が、明るく、楽しく、心豊かに暮らせる社会を目指し、組織の拡大と、きめ細かな活動に努めるとともに、老人クラブの原点である会員の自立、共同共助を基本として、地域に密着した事業を推進するため、次の重点項目を実施します。

- 1、単位クラブ活動の充実と会員の増強
 - 2、老人クラブ指導者の養成と研修
 - 3、区老連体制の確立
 - 4、生きがいと健康づくりの推進
 - 5、社会奉仕活動の推進
 - 6、老人クラブ21世紀プランの推進
 - 7、ねたきりゼロ運動と在宅福祉を支える友愛活動の推進
 - 8、全老連、県老連、社協等各種団体との連携
 - 9、「ちば市老連」発行と広報活動
- 以上を重点とし、事業面では、例年行われておりますゲートボール、グランドゴルフ、輪投げ、囲碁将棋、芸能等各大会が予定されております。
- その他、各種の研修会等も数多く計画されております。十年度も楽しい老人クラブを目指し、頑張ります。

事務局だより

平成九年度もまもなく終わります。皆様のご協力に感謝致します。

事務局職員の異動について 長島香織さんが退職され、後任に小林隆直君が二月から就任しました。よろしくお願ひします。

平成九年度十月からの報告

会長研修会 十月八日・九日に実施、参加者五十人、研修先は、二宮尊徳記念館で、館長の映画を交えての説明と、施設の案内を受けました。

全国老人クラブ大会 十月二十三・二十四日の二日間、鹿児島市で開催されました。席上、久力副会長が、老人クラブ育成功労表彰を、団体では、幕西若葉会が、表彰を受けました。

輪投げ大会 十一月五日、千葉公園体育館で開催。団体優勝花見川区、北地区、個人男子は若葉地区小柳昇さん、女子は北地区斉藤三枝さんが優勝。

指導者研修会 十一月十八日にかずさアカデミアパークのDNA研究所で、講義を受ける。参加者94名。

芸能大会 十一月二十七日、市民会館大ホールで盛大に開催されました。千葉市長賞、幕張地区松寿会、市議会議長賞、こてはし地区こてはし台千寿会、市社協会長賞、中央地区女性部特別賞、千城地区小倉台親和会の皆さんが入賞されました。

市老連新年会 一月二十日、センシティブタワー東天紅で開催し、参加者は190名で盛大に行われました。

年末慰問 十二月に行われました。**全老連の会議、研修会** 多くの役員さんに出席をいただきました。

広報活動の役割はまさに見出しの一語に尽きます。広報紙が全会員に配られると聞いてうれしく思いました。誰でもジックリ読むことができるからです。

ひろく知らせ、ひろく求める 広報活動に期待

市老連副会長 久 力 ス イ

広報活動の役割は、会員の声をひろくとらえ、適確な道しるべを提案することですが、そのためには会員の実態をよく知る必要があります。

高齢者は大きく変わりました。15年若くなりました。いま60歳を高齢者と考える人はまず少ない。80歳はガラ、90歳を生きる人も数多く、健康づくりを第一の目的に自己中心的活動がひろがりを見せています。

第三の変化は、自分さえの生き方から、地域であたかく生きたいの活動への思いです。都市型、農村型で住民意識は違っても、健康に生きたい、心豊かに生きたいの願いは一つ。この元気で生きよう、役立って生きようの役割意識が盛りあがったら、男女協同の活動分野は大いに期待できましよう。

広報紙づくりは、専門性をもった力量の高い編集長の構想が最も重要な支柱、そして役割分担のうまさが必要不可欠だと思います。円滑な運営のもと入念な親しみのある記事づくりに感じています。最後にどの記事にも言えることですが、啓蒙記事や紹介記事などには割付けに腐心して、いい発表の場にしてもらいたいと思います。

自分の老後問題ともからめ、心豊かに生きる道を学び、活動していくのに最も身近な資料として活用し成果を挙げていきたいものです。

今回の長沼原台千寿会の実践活動のレポートは、きっと感銘し啓蒙されることでしょう。僅かの年月で会員倍増、リサイクル、環境美化、ふれあい重視活動等の楽しさが手にとるようです。



明るく活力ある地域社会を 会員の役割と活動に期待

千葉市保健福祉局長 泉 真

皆様方には、日頃より、市政とりわけ高齢者福祉の増進に対しまして、多大なるご理解とご協力をいただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

さて、我が国は、人口の高齢化がすすみ、21世紀の前半には国民の3

人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎えることが予想されるなかで、人生80年時代にふさわしい社会システムの充実を図っていくことが緊急かつ重要な課題となっております。

そこで、本市では、平成8年3月に「明るく生きがいに満ちた健康福祉都市の実現」を基本理念とします「総合福祉計画」を策定すると共に、本計画を具体的に推進するための「高齢者福祉推進計画」をスタートさせ、施設整備の促進、在宅サービスの充実、さらには、高齢者の生きがい対策の推進等、各施策の推進に鋭意取り組んでいるところでございます。

一方、市老連の皆様方におかれましては、さまざまな地域活動や各種ボランティア活動を積極的に取り組んでおられると存じます。こうした老人クラブ活動は、これからの高齢化に対応した、明るく活力に満ちた地域社会づくりに欠かせないものであり、皆様の役割や活動への期待はたいへん大きいものがあります。

どうか皆様方には、今後とも健康に十分留意されまして、地域社会の発展と魅力ある老人クラブづくりを目指し、ご活躍されますよう心からお願い申し上げます。

地域福祉の発展充実に

千葉市社会福祉協議会会長



清水 光 任

将来に亘って安定して、継続的に機能する制度であって欲しいと願っております。

老人クラブの皆様には日頃より私共協議会に、深いご理解をいただき格別の御協力をいただいておりますことに對し、厚く御礼申し上げます。

いま我が国は、戦後五十年余続いてきた社会、経済、制度の在方について、大きな変革が求められているなかで、高齢者と深いかかわりをもってあります医療、年金、福祉等の社会保障全般に亘る再編が進められており、また、昨年十二月には、介護保険法案が国会で採決されてもおります。

それらの制度内容を見ますと一部高齢者の負担増を求めています。二十世紀初頭世界で例をみない超高齢社会の到来が間近に迫っている現在、やむを得ないことと思われませんが、いま行われている改革が、単に高齢者の負担増ということだけでなく、社会保障費全体の効率的配分等のことを通して、

いま私達の社会は人生八十年ということがすでに現実のものになっておりますが、高齢者に対する考え方が、高齢者自らも、他の世代の方々においても、大きな変化が起りつつあります。その代表的な考え方は、今までのように、高齢者は福祉の一方的受け手としてだけでなく、同時に担い手でもあるということであります。

私は皆様方がそれぞれの地域におきまして、熱心にボランティア活動をしておられるところをよくお見うけする機会がありますが、皆様方の地域に対する御貢献に、心より敬意を抱いているものの一人であります。

会員の皆様には、今後とも健康にご留意いただき、地域福祉の発展充実のため一層のご尽力をお願い申し上げますと共に、千葉市老人クラブ連合会の益々のご発展を御祈念申し上げます。

「地域の担い手」老人クラブ

全国老人クラブ連合会事務局次長

兼子 久

21世紀の高齢化社会を展望した、人生80年時代にふさわしい豊かな長寿社会を築くことが国民共通の課題として強調されています。

その一環なのでしょうが、老人・高齢者の呼称をどうするかとか、年齢を何歳からにするのかといった論議も盛んです。しかし、その論議の背景には、

高齢者観が大きく揺れ動くなか、高齢期を迎えた少なくない人たちが「高齢者と見られたくない」「自分を高齢者と認めたくない」といった気持ちも含まれているのではないのでしょうか。

最近、全老連事務局に「老人クラブ助成金は受けても、老人クラブ連合会に入らない高齢者のサークルに困っている」という電話がときたまかかってきます。「近所の清掃奉仕や温泉旅行などといった老人臭い活動はごめんだし、老人クラブという名前もつけていない」というのが、未加盟の理由のようです。

「高齢者」と同様、「地域社会」や「地域でのありふれたつきあい」がおもに都市部で敬遠される背景には、いわゆる「現役」と呼ばれる働き手の時

期に「仕事中心」「会社中心」の生活に追い回され、家庭や居住地での生活時間を極端に切り詰めざるを得ないのか、何時の間にか「地域社会」を置き去りにして当たり前という意識になってしまった人が増えていることがあるようです。

全老連では、千葉市美浜区真砂地区老人クラブ連合会の活動が話題になっています。自分達が「終(つい)のすみか」と移り住んだ美浜区には、気軽に集まってくつろぎ楽しむ公的施設や、いざというときの総合病院、高齢者福祉施設などが殆どないとのこと。この現実を訴え、自分達の街づくりを考えるフォーラムなどの取り組みを通して、新たな老人クラブが結成され、60歳未満の準会員が半数をも占めるクラブがあるという報告に、一つの答を見ることができそうです。

自分達の「ありふれた老後の地域生活」を正面から見据え、立ち向かう姿にこそ「豊かな長寿の生活」があるということを多くの人々に伝えて行きたいと思っています。

老練世代の出番

清 岡 鶴

最近の世相——社会情勢を見ていると、直感的に「おかしい、狂ってきた」という気がしてならない。

親が子供を殺したり、逆に子供が親を殺したり、はたまた小、中学生、高校生によるナイフを使っている殺人事件

の頻発には、一体日本はどうなってしまうんだ、と嘆きたくなる。寂漠たる淋しさを覚えるのは、私人ではないだろう。

他人なり、親族といえども、人を殺すことは重大犯罪である。小、中学生、高校生といえども「ことの理非」

や、やっていいことと悪いことはわかるはずである。わからないなんていうことは、自分を欺いているとしか言えない。

民主主義の根幹は「人に迷惑をかけること」にある。それが戦後五十数

年を経て利己主義、自由放任主義と混同されてしまった感がある。いまさら嘆いてもはじまらないという意見もあるが、いまならばまだ間に合うのではないか。

日本が戦後の高度成長を謳歌して経済一辺倒で直進してきたこと、そして少子化で子供の出生が著しく減少してしまったことも一因だろう。甘やかしての子育ての報いと言えないこともない。親子の絆の弱さ、コミュニケーション不足、心の交流不足など、いろいろあろうかと思うが、親たちの成長より子供達の自我の強さが上回ってしまった形は、何としてもここらで軌道修正をしておかないと、とんでもないことになるだろう。

教育関係者はもちろん、親御さん、地域の住民など、みんな英知を出し合い、明日の日本民族のためよい方向にもって行く努力を惜しんではならない。

特に人生の先輩諸氏が、いまこそ「ことの理非」をキチンと子供達に教えていく責務を負っていると申し上げても過言ではないだろう。徳川家康の家訓ではないが、「人生は重い荷物を背負って行くが如し」で頑張ろうではありませんか。

(つるおか・きよし) 千葉日報社代表取締役社長



平成会も今年で十年の節目を迎える事ができて、会員一同心から喜んでいきます。
平成会は、一週間に三回の例会を開き、趣味の集いを楽しんでいます。

楽しい平成会

平成会 松本 葉子



趣味の会参加作品

例会の日は、市老連会歌の斉唱で始まり、伝達事項が終ると、県老連配本の「みんなの愛唱歌集」を全員で四十分ぐらい大合唱します。これは健康維持に最適だからです。今ではその成果？があり、引込思案だった方もカラオケに挑戦する程です。合唱が終わるとカラオケ、舞踊、お喋り等、自由時間となり、あっという間の三時間です。

多芸多趣味の方が多く、講習料無しで習得できるのも魅力です。手芸の得意な方には、小物、お人形等を教わり、出来上がった時の喜びは格別です。

またお茶菓子をつまみ乍らの雑談も、在宅ではなかなか味わう事の出来ない楽しみです。年中行事も多く、年二回のボラ活動にも進んで参加し、新年会、誕生会、忘年会、芸能大会等全員一致協力です。

かずさアカデミアパーク見学記

菊 地 鼓 平

平成九年十一月十八日、お日からポカポカ陽気の小春日和の青空の中、二台のバスに分乗した市老連の「指導者研修会」が「かずさアカデミアパーク」で行われた。

「かずさアカデミアパーク構想」は、エレクトロニクス・新素材・バイオなどの先端技術産業分野の民間研究所を中心とする国際的水準の研究開発点を、約一千ヘクタールの地域の中に形成しようというもので、昭和五十九年に策定された。第一セクターは、千葉県と母都市（木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市の市街地）がこれにあたり、第

楽しい成果を収めています。特に芸能祭の練習等は実に熱心で体力の限界を越える程の猛練習、高齢者とは思えない程元気で頑張っています。

こういう事がボケ防止となり老化を防ぐことになるのだと思います。

私達の老化防止の条件とは、
1、絶対孤独にならないこと、仲間を作り行動を共にし、他人を思いやること
1、感謝、感激、感動を忘れず、

二セクターつまり民間側は今のところ、富士通・キャノン・日産化学・電気化学・日本ゼオン・丸善石油化学・田辺製薬などの研究所の進出が予定されている。

私たちが最初に入ったのは、南北に細長い第一期事業区のほぼ中央に位置する「かずさDNA研究所」である。たいへん広い敷地に、地下一階地上四階の本棟と地上二階の交流棟が組み合わさった極めて異色斬新な設計である。エレベーターもあるのだろうが、私たちは階段を四階まで案内された。三角形の中庭は、竜安寺の石庭を模している。大会議室でビデオによる開発の様子が十分程度説明された。つづいて二手に別れて三階の研究室の廊下を巡りながら、壁に貼られた図表によってDNA研究の現状が説明された。ラン藻につづいて目下は、シロイヌナズナの約一

自立すること
1、挑戦する気持ちを失わず、老いても尚、学ぶことです。

私も初めは敬遠した老人会ですが、今では入会できた事を本当に嬉しく思っています。何故ならば、右記の「老化防止の条件」を自然と実行出来て、楽しい仲間を作り、諸々の智識も得るところが絶大だからです。

今後益々健康に留意し、美しく老い、心豊かに、すごしたいと思っております。

私たちは、「かずさアーク」で屋食のあと、庭園を散歩したり、ホテルのショッピングルームで買い物やらラウンジで飲み物と、ひとときを楽しんだ。

豪華な気分、豪華な窓外の庭園を眺めながら、さてしかし、廿一世紀初頭になって、人類十万人種の遺伝子がすべて解析されたとして、植物のポマトならいざ知らず、品種改良がついに人間にまで普遍化され、胎児どころかそもその染色体減数分裂から管理されることにでも若しなつたとしたら、といささか索然たる思いに促された次第である。

億二千万という塩基対の解析に取り組んでいて、外国と分担して協力、というより競争での研究だという。シロイヌナズナというのはつまりペンペン草のことだそう、塩基対の数が人間にくらべて少ないことのほかに、成長が早く約四十日で世代交替するので、DNAの世代変化などを調べるのに好都合らしい。四階に上がって会議室に入る前の北側の窓からの展望がなかなか良かった。拓けた視界の中、道路を挟んだずっと向こうにコの字型に連なった近代建築が広がっていて、これは二十人から収容の一大コンベンションホールとホテルで、「かずさアカデミアセンター」である。コの字をアーク（弧）に見立てて、愛称を「かずさアーク」とか。



新年会

土気地区 江沢 実

去る一月二十日市老連新年会がシティビル二十三階の東天紅で行なわれたことは、参加者の記憶にあらたなことと思うが、あの高所の会場の窓から眺めた市街の展望は百万都市の現実接した印象を強くした。

その二日後私達の地区連でも外房白子のある会場で新年会を開催した。総勢五十七名の参加者を得て華々しくにぎやかに十一時から午後三時までつづけられ、帰りにはおきまりのように魚の干物などを求め全員事故なく帰宅することが出来た。

経済情勢の悪化を耳にする昨今にもかかわらず私達高齢者は健康である限り、ささやかでも機会を

みてそれなりに楽しみをもって送られる事は誠に恵まれたことと感謝せずにはいられない。虎年にふさわしく雄々しく今年も又総ての面でいっそう頑張らねばと心に誓う次第である。

ゲートボール讃辞

西都賀ちとせ会

高野 智行

人間は昆虫同様に明るさに憧れ集う習性がある。

いつの間にやら定年を迎え、甲羅を剥ぎとられた裸亀みたいに落ちこんでいた寂しさをまぎらわす手段にゲートボールを習い始めた。勿論夫婦揃っての参加である。ゲート場まで家から約2K、途中には急な坂道もあって、かなり体にこたえる。

ゲートの出場日は結構忙しい。早目に起きて、その日の家の仕事をしなければならぬからだ。従ってゲートは時間との戦いだといっても過言ではない。

私たちは2年前に結婚50年を迎えることが出来た。これもゲートボールのお陰だと思っている。

現在私は78歳、妻は75歳。昔の妻のひ弱さはどこへやら、今は健康100%で、声量も人一倍、言葉に刺があるのがやや難点だが――。



漢詩

花見川区 三矢 金吾

病臥偶感

突然病を得て院床に臥す
肺に穴を生じ空氣漏洩す
永年の喫煙右肺を冒し
肺は収縮して呼吸困難となる
宜なる哉酷使八十年
然るに見よ近代医術の粋を
八十の老体を遂に蘇生させる
余命を与えられた吾が歓喜を思え

短歌

北大宮台 水野 ふで

ふるさとより移せし白梅 季は廻り
枝振り優り 鶯も来ぬ

老い深み再び訪へるや ふるさとの
遠くに在りて 今日も過ぎ行く

北大宮台 服部 よ志

この門に帰り来る日の またありや
病葉おつる 入院の朝

病院に待たれることも なき今日よ
うつそみならぬ 君帰り来る

都賀地区シルヴァークラブ

桜田 幾代

草紅葉踏み行く畦の青き葉に
つかれはてたるさまの揚羽や
ほしわらの積まれる納屋の軒先に
ゐねむる老女に木洩れ日の端

都賀の台シルヴァークラブ

平野 寿男

美しき名をもつといふ星いくつ
見えぬ吾が眼の奥にまたたく
ひきつづき明日も生きてゐるつもり
手つかずの本書棚に積みて

轟南延寿会 柚甫

白馬なる大空高く飛行する
若きスキーヤーの逞しき顔
金メダル掲ぐる吾子の晴れ姿
母はスタンドに顔をおほへり

一瞬のタイムを競う氷上の
選手的眼ざし鋭く光る

西都賀ちとせ会 高野 智行

何事もなかれと今日も手を合わす
不孝重ねし親の位牌に
降り注ぐ雪に旅路はとざされて
思わぬ情け積もり積もれり

俳句

轟南延寿会 延子

着ぶくれて女たること忘れけり
日あし伸ぶ猫のチー子は大欠伸

都賀の台シルヴァークラブ

吉田 桂吉

釜の背に雪合戦の流れ弾
春の雪いのち離れていく早さ
冬花火ひんやり老の橋懸かり

西都賀ちとせ会 高野 智行

散策のコース摘み取る路の臺
どの口も愚痴一色の日向ぼこ

狩野 喜美

早春や今日思いつき髪カット
水溫み少し若やぎ街に出る
芽吹きせし庭にひよ鳥急降下

みつわ台寿会 桜沢 直

蛇群れてハツ手は白き花こぼし
豆まくや鬼に化けたる作男
土手焼けば利根の風ぐせつりのりけり

亀井町福寿会 行木美枝子

雲間行く月を惜しみて立ちつくす
初句会一輪ざしや卓の上
湯上りをそつときづかう妻の手が

川柳

西都賀ちとせ会 高野 智行

頭より光る亭主の思いやり
勇退の後は重役妻の使者



元気づくり、しませんか!

人生
80年時代

どこの町内でも熟年といわれる70歳台の層が大きくふくらんできています。

だから……熟年が元気なら、元気な町になり、元気な社会になります。

いきがいを、よろこびを、そして毎日を輝やくために、あなたの社会経験を<元気づくり>に生かしてほしいのです。

健康づくり

シニアスポーツ・ダンス・日本舞踊・歌唱そして旅行一楽しみながら健康づくりの活動

元気づくり
活動

友愛の輪

例をあげれば60歳から90歳—30歳の年齢差をこえて、お互いに支えあいながら、やすらぎ・うるおいの輪をひろげる友愛の活動

社会参加

花のある町、ゴミのない町づくり、そして世代をこえた交流・防災・交通安全等地域の活動参加で、明るく住みよい町づくり活動

お申し込み
ご意見

あなたの町のクラブに_____

ひとりにならない・ひとりにしない

編集後記

▼会誌から広報紙に衣替えした市老連第八号であるが、広報が広く知らせること、そして広く声を求めるものであると、久力副会長は広報の役割を強調し、大きな期待を寄せられた▼広報部は期待の重さを背負いながら、8頁と少なくなった広報紙づくりとなったわけだが、熟年層が年ごとに増大していくなかで、クラブ活動がクラブだけの内輪の活動から、一歩前進し社会参加活動へと展開して、熟年者クラブの存在感と地域の活性化の役割を果たした長沼原台のレポートは広報紙づくりの楽しさ、うれしさを満喫させるものだった。▼また第八号には福祉局長さんや社協会長さんのほか全老連や千葉のマスコミを代表する千葉日報さんのご寄稿をいただくなど会員にアピールし得たことは望外の喜びであり、心から感謝しお礼申しあげ後記とする。(編集委員会)

ちば市老連 第八号

平成十年三月十五日発行

発行 (株)千葉市老人クラブ連合会

〒260-0013 千葉市中央区中央一三二

千葉市社会福祉事業団ビル

印刷 有限会社 宮坂印刷

〒263-0021 千葉市稲毛区轟町一八一六

FAX 〇四三(二五) 四五三七
〇四三(二五) 四五三五